

日本は“出雲”を利用して攻防兼備型の海軍を建設しようとしている  
人民網 2013年08月13日 04:16 ソース：科技日報

阿部信行

(訳者コメント)

先日の「出雲」建造に関する解放軍報の記事に引き続き、人民網が転載した科技日報の記事を紹介します。

科技日報は、海軍技術の専門家で現役軍人の尹卓氏を取材し、日本が「出雲」を建造した目的等を解説しています。

尹卓氏は、「出雲」は空母の標準を全て満たしている。海上自衛隊は「出雲」によって質的飛躍を遂げた。日本は米国の本心を探り攻防兼備型の海軍を建設しようとしている、などと述べています。

他の関連記事にも見えていますが、日本の海軍力の増強はいずれ米国に向かうというコメントが見られます。中国は、日本の対抗力を抑えるために、米国にすぐる方法も模索しているのかもしれませんが。中国人の面子はどう説明するのでしょうか。

インドの国産空母に対して、中国はインドの科学技術を格下に見ているため、余裕をもって、どうせ戦力化はずっと先になると高を括っています。

右翼勢力が憲法改正と国防軍建設を鋭意推進しているときに、日本が建造した第二次大戦後最大の軍艦“出雲”は、横浜造船所で正式に命名され進水した。同艦は2015年3月に就役する予定である。あるアナリストは、この艦は、海上自衛隊が保有する初めての航空母艦である、と述べた。ならばその技術、性能はどうなのか？日本がこの準空母を建造した戦略意図は何か？中国中央テレビの記者は、軍事専門家で中国海軍情報化諮問委员会主任の尹卓を取材した。

“出雲”は空母の標準を完全に満たし、対潜能力が高い

日本が“出雲”を建造しているとのニュースは2009年に現れた。2010年、日本政府はこの予算を承認した。あるアナリストは、わずか3年で“出雲”を完成させる建造技術があり、日本の造船能力は侮れないと述べた。

尹卓は、「出雲」は、大型のヘリ空母であり、完全に空母の標準を満たし、対潜能力が高く、日本で現在トン数が最大の艦艇である。同艦は、アイランド型建築を採用し、長い甲板は片側に偏在する。このようにすれば、甲板全体が広くなり、航空機の離着陸と準備が容易になる。その他、同艦の船室にはドックが無く、全ての空間が航空機格納庫に利用でき、少なくとも16機のヘリが格納

できる。同艦のエレベーターは大きく、同時に 5 機の大型ヘリを離着陸させることができる。或いは MV-22 オスプレイのような大型機も可能である。また同艦の超視距離戦力輸送能力は極めて高い。同時に対潜能力が極めて高い。同艦は 10 機前後のヘリを搭載でき、敵の潜水艦に対して大きな圧力となる。同艦周辺の大型水上編隊は潜水艦を包囲することができる。さらに言うと、もし“出雲”が垂直離着陸できる F-35B を搭載すれば、日本は真の意味の空母を保有することを意味する」と述べた。

### 日本の海上作戦能力の質的飛躍を示す

現在、海上自衛隊は先進的な通常型海上防御艦艇を装備するだけでなく、“蒼龍級” AIP 潜水艦、“大隅級”ドック型揚陸艦、“日向級”ヘリ搭載駆逐艦のような先進技術の海上艦艇を保有している。

尹卓は、「“出雲”が就役すると、日本海軍の作戦能力は質的に飛躍することになる。過去、日本の“金剛級”駆逐艦が就役した際は、一水上艦艇であることから、自艦の防空は自艦の防空ミサイルだけに頼らざるを得なかった。もし敵機の攻撃を受けた場合、一般的に劣勢であった。もし将来日本が F-35B の購入に成功したならば、“出雲”の空母編隊は艦載防空ミサイルだけで守られるのではない。“出雲”の固定翼機は同時に 700-800 KM の範囲内で作戦を行うことができる。同艦は同時に強力な対地、対海攻撃能力を有している。

これは、日本海軍の変革を意味し、純防衛型から攻防兼備型への変化を意味する。しかし客観的に見ると、日本がたとえ準空母“出雲”を保有したとしても、真の進攻型海軍になるには、まだまだ不足しているものがある。第一、日本は核潜水艦が無い。戦略進攻能力及び戦略輸送能力がない。特に海上自衛隊の対海、対陸地攻撃能力が弱い。全体的に見ると、日本海軍はやはり防御型海軍であるが、今後の発展を侮ることはできない。なぜなら、日本は大型艦の造艦能力があり、造船工業が発達している。もし米国が建造を承認すれば、日本海軍の軍事力は急速に発展する」と述べた。

### 日本は米国の本心を探りつつ、攻防兼備型海軍を建設しようとしている

近年来、日本は周辺的安全を理由に“平和憲法”の制約を撤廃する動きを強めながら、他方面では、海上自衛隊を重点的に発展させている。海上自衛隊の狙いは、“出雲”を遠洋対潜作戦編隊の旗艦にすることである。

これに対して、尹卓は、「“出雲”は一種の水陸両用戦力輸送能力の高い艦艇である。同時に対潜能力も高い。日本がこのような大型艦艇を建造するのは、絶

対に対潜作戦のためだけではない。日本は、“出雲”は対潜が主と称しているが、人心を惑わす言い方である。或いは意図的に人心を惑わしている。實際上、日本は米国の日本に対する制約を突破しようと試みている。従来、米国は日本が大型艦船を建造することを許さなかったが、ここ数年来、米国は日本が大型艦艇を建造するのを許している。従来、日本が空母を保有することを許さなかったが、小型のヘリ空母の保有は許すようになった。さらに中、大型のヘリ及び固定翼機空母の保有に至り、最後は攻撃型空母の保有に至る。日本はゆっくりと米国の本心を探っている。我々は、対潜艦が防御型であることを知っている。今のところ、その他の艦艇は“出雲”よりも大きくはない。もし今後日本が再び防空問題を重要視した場合、それはすなわち更に大きな艦艇の建造が必要となることを意味する」と述べた。

(本欄は、科技日報軍事部と中央人民ラジオ局「国防時空」「晚高峰観軍情」欄の共同で作成した)

(編集責任者：楊鉄虎)

以上